社説

誇りたい加賀藩の文化遺産

国宝に金沢本万葉集

加賀藩前田家伝来で宮内庁三の丸尚蔵館が収蔵する古写本「金沢本万葉集」が国宝に指定されることになった。加賀藩が百万石の威信をかけて収集、継承した文化遺産の大きさをあらためて示す栄誉と言える。

来年秋には石川県内で開催される国民文化祭のメイン行事として同館特別展が開かれ、金沢本万葉集も展示される見通しである。文化絢爛の舞台で、国宝として「里帰り」する名品に触れる誇らしい機会にしたい。

北陸では、高岡市の勝興寺の本堂と大広間・式台も国宝に指定される。同寺は前田家の庇護を受けて境内が整備され、本堂は住職を務めた11代藩主前田治脩の援助で建立された。長い年月を経て、前田家の文化行政の成果が高く評価されたことは意義深く、加賀藩文化圏の価値を高める機運を一段と盛り上げたい。

今回国宝となる古写本は「万葉集巻第二、第四残巻・金沢本」で3代藩主前田利常が収集し、後に明治天皇に献上された。平安末期の書家藤原定信筆とされ、華麗な文様の和製唐紙に、流れるように躍動的で典雅な筆致で和歌がしたためられている。写本の中でも美しい平安期の「五大万葉」の一つであり、文化審議会が国宝指定を文部科学相に答申した。

これまで三の丸尚蔵館の収蔵作品は、皇室で継承された「秘蔵の品々」であることから、格付けを控え、厳格な保存対象となっていた。ただ政府は近年、観光立国政策により、文化財の積極的な活用にかじを切っており、収蔵品に文化財としての価値を付与し、地方を含めて幅広く公開する方向性を打ち出している。

こうした流れを受けて来秋の国民文化祭で開かれる特別展は、同館の地方展として最大規模となり新たに国宝となる金沢本万葉集をはじめ、皇室ゆかりの名品約100点が出展される見通しである。

北陸は、万葉集の編纂に関わったとされる歌人大伴家持が国司として赴任した地でもあり、各地に足跡が残る。当地の歴史を振り返る意味でも、金沢本万葉集の公開に期待は大きい。加賀藩の遺産と文化土壌の厚みを感じ取る上で、見逃せない展観になるだろう。

関係安定へ対話絶やさず

日中首脳会談

岸田文雄首相が中国の習近平国家主席と初めて対面会談を行い、関係安定化へ協力することで一致した。閣僚級の「日中ハイレベル経済対話」の早期再開や、防衛当局間のホットラインの運用開始などで一致したことは首脳会談の成果と言えるが、沖縄県・尖閣諸島をめぐる対立など安全保障上の問題は解決の道筋が全く見えず、溝の深さが改めて浮き彫りにされた。

日本の主権、領土を脅かす中国の覇権的行動に毅然と対応しながら、経済や民間交流での決定的な対立を回避するため、今回の会談を機に対話を絶やさず、安定した日中関係をコントロールしなければならない。

岸田首相は、尖閣諸島を含むシナ海情勢や中国の弾道ミサイル発射などの軍事活動に「深刻な懸念」を伝え、台湾海峡の平和と安定の重要性を強調した。李克強首相が出席した東アジアサミットでは「中国は日本の主権を侵害している」と強く批判したのに比べ、抑制した言い回しとなった。

習氏は「内政干渉は受け入れない」と反発し、尖閣諸島について「政治的な知恵と責任を持って見の相違を適切に管理しなければならない」と述べた。そうであれば、まず尖閣周辺での領海侵犯をやめなければなるまい。

石川政治

地域別の公表再開検討

コロナ感染者数、保健所単位で

厚生文教委

厚生文教委では、永松聡一郎健康福祉部長が新型コロナの地域別の感染者数を発表する考えがないか委員から問われ、「県内五つの保健所単位で公表できないかと考えている」と前向きな姿勢を示した。以前は居住自治体の情報も公表していたが、9月下旬の全数把握簡略化に伴って取りやめていた。

永松部長は「簡略化したため市町別の正確な患者数は把握できない」と前置きした上で、「地域情報を知らせることは重要と考えている。医療機関から報告を受ける保健所の管区単位で検討したい」と述べた。

富山で補助金詐取

「県内も早期調査を」

富山県で新型コロナ無料検査事業の補助金をだまし取ったとして2人が逮捕された事件に関連し、委員からは「石川でも同様の事例がないか早期に調査すべきだ」との声が上がった。永松部長は「検査数を水増ししたなどの例があると聞いている。石川でも適切に検査が行われていたか調査している」と答えた。

エコデザイン賞16件たたえる

県庁で表彰式

いしかわエコデザイン賞の表彰式＝写真＝は18日、県庁で行われ、環境保全に役立つ製品やサービス16件をたたえた。大賞には、製品領域でNTG（珠洲市）、サービス領域でフルタニランバー（金沢市）がそれぞれ選ばれた。

NTGは廃棄ユズや間伐で出るクロモジなどを使った蒸留酒「のとジン」を考案し、フルタニランバーは使用燃料を抑えられる木材高速乾燥技術を開発した。式では馳浩知事があいさつし、山村真一審査委員長が講評した。フルタニランバーの古谷隆明社長が抱負を述べた。

受賞製品・サービスを紹介するパネル展示を12月9日～来年1月23日に県地場産業振興センター本館、3月7～26日に県立図書館で行う。大賞以外の受賞者は次の団体。

▽金賞　たつみや、県立大▽銀賞　dworking Studio、o.f.s、Suzu Woo▽銅賞　桑木、ハチドリソーラー・ラクラス▽低炭素賞　ロゼックワークス▽里山里海賞　加藤手織牛首つむぎ▽資源循環賞　YOU、DREAM WORKS、清峰堂▽パブリシティ賞　エイチツーオー、アール・ビー・コントロールズ▽フューチャー賞　箔一産業

若年層に追加意識調査

県成長戦略

高校生らの声、策定に反映へ

県議会総務企画県民委員会は18日開かれ、県側は「県成長戦略」の策定に向け、若年層を対象に追加の意識調査を実施したと明らかにした。9月下旬から10月上旬にかけて実施した1回目の調査で若い世代の回答が少なかったため、県立高の生徒らにあらためて意見を募った。今後、結果を取りまとめ、戦略策定を担う有識者会議に提示し、若者の声をビジョンに反映させる。

総務企画県民委

最初の意識調査は9月22日～10月12日、県内在住の18歳以上5千人を対象に行われた。県によると、2224人が回答し、回収率は44・5％だった。この結果を受け、委員の1人が「全体の回答率が低いなら、特に若い世代の声は十分に集まっていないはずだ」と指摘した。

これに対し、光永祐子企画振興部長は「石川の将来を担う若い人の声を戦略策定に反映させることは重要だ」と強調。30代以下を対象にした2回目の調査を既に行ったとし、「県立学校の生徒のほか、県のLINE公式アカウントに登録している30代以下の県民を対象にした」と説明した。

追加の調査は10月22日～今月13日に実施され、現在、県が集計作業を行っている。結果がまとまり次第、有識者会議に報告し、議論の参考にしてもらう。

成長戦略は来年度前半に素案と最終案を検討し、来年9月に策定される見通しとなっている。

国民文化祭PRに運転代行も活用

県民文化スポーツ部関係では、来年秋に開催される国民文化祭（いしかわ百万石文化祭2023）のPRステッカーに関し、酒井雅洋部長が運転代行の車両を掲出先として活用する考えを示した。委員の要望に答えた。

ステッカーは現在、県バス協会、県タクシー協会を通じ、バス千台とタクシー1400台に貼り出されている。酒井部長は「新たに運転代行協会にも協力をお願いしたい」と話した。

ソーシャルフットボール全国へ意欲

県庁で「ルミナス」

精神疾患のある人も楽しめるフットサル「ソーシャルフットボール」チーム「ヴィンセドール　ルミナス」は18日、県庁に酒井雅洋県民文化スポーツ部長を訪ね、初出場となる全国大会に向けた意気込みを示した＝写真。

大会は26、27日に徳島県で開催され、同チームは甲信越北陸代表として出場する。別宗利哉代表兼監督がチームの状況などを説明し、選手を代表して中野喜文さんが「練習で培ったことを出し、知見を広げる機会にしたい」と決意の言葉を述べた。

知事・市町

【午前】10・00 馳知事事案、30分、角居勝彦氏。社交料飲生活

高齢者の〇〇

石川の事例

厚労省

健診情報など

保健事業に生か

ヘルス計画」を

生労働省の検討

オンラインで開

から出向してい

郎県健康福祉部

た。県と市町が

馳知事　10・00 海側幹線（金沢市大 間）開通式（浅野川 12・00 県鍍金工業 記念式典（金沢東急 30 女性県政会議・ 幡町文化会館シグナ 村山金沢市長 10 状道路海側幹線（大 間）開通式（浅野川 13・00 市校下婦人 女性センター）、14 来を語るまちづく （森本市民センター 山田白山市長 9 国学生柔道体重別選 任総合運動公園啓武 松南スポーツ少年団 （松南小体育館） 宮橋小松市長 9 立150周年記念式 ・00 市小中学生 中）、14・00 加賀 祭プレフォーラム（ ズこまつ） 宮元加賀市長 10 法人幸徳園創立40周 所） 粟野々市市長 10 状道路海側幹線（金